


## 海外留学研修制度

本学では、学術交流協定を結んでいる大学等に最長1年間留学できる交換留学制度があり、毎年10～15名程度の学生が協定校に留学しています。また、協定校留学のための給付型奨学金制度もあります。このほか、オンライン英語研修、夏季、春季休業中には約1か月の短期海外語学研修を実施しています。短期海外語学研修では語学研修に加え、現地学生との交流や、文化体験、会社見学など、それぞれ特徴的な実地研修を行っており、日本では得られない貴重な体験を通じて、国際的な視野を育むことができます。

### ■ 短期海外語学研修

研修先	アメリカ合衆国	マレーシア	ニュージーランド
			
	カリフォルニア州立大学サンマルコス校	トungkアブドゥルラーマン大学	オークランド大学
派遣期間	約4週間(夏季休業中)	約2週間(夏季・春季休業中)	約4週間(春季休業中)
内容	1.英語研修 2.現地学生との交流 3.周辺都市へのツアー 4.会社見学 ※滞在はホームステイ	1.英語研修 2.現地学生との交流 3.文化体験 4.周辺都市へのツアー ※滞在は大学の学生寮	1.英語研修 2.現地学生や他国からの留学生との交流 3.現地小中学校への訪問 ※滞在はホームステイ
主な経費	・航空運賃等移動交通費・ESTA申請料金・授業料・ホームステイ費・現地送迎費・アクティビティ費・食費・保険料 他	・航空運賃等移動交通費・授業料・宿泊費・現地送迎費・アクティビティ費・食費・保険料 他	・航空運賃等移動交通費・授業料・ホームステイ費・現地送迎費・アクティビティ費・食費・保険料 他

※この他に学部等が実施するプログラムがあります。

### ■ 学部1年次対象 短期海外英語研修

「富山大学生に、グローバル社会に踏み出す第一歩にしてほしい」という意向から、学部1年次の3月に、英語研修に定評のある海外の大学(ニュージーランド、マレーシア、台湾)で、英語を学ぶとともに、異文化体験や学生交流を行います。



## 国際交流

本学では、海外の大学・研究機関と幅広い国際交流を行っています。現在、21か国・地域、47機関と大学間交流協定を締結し、27か国・地域、95機関と部局間交流協定を締結しており、学生相互の留学や研究者による研究活動を活発に行っています。




長期研修

大学生である今だからこそ、挑戦してほしい。



▶留学先

 オランダ  
ライデン大学



▶氏名・所属

表 志保さん  
(人間発達科学部 人間環境システム学科 4年)

私は3年次から1年間(2022年8月～2023年8月)の交換留学を経験しました。オランダと日本は江戸時代から友好的な繋がりがありますが、特に私の住んでいたライデンは、世界初の日本学科が設置されたライデン大学を始め、今でもその名残が色濃く感じられるところです。

国際色が非常に豊かで、どんな価値観に対してもオープンで寛容なオランダという国で、私は個性を大切にすることの素晴らしさを学びました。自主性、多様性が尊重される社会で、積極的に現地の方々や留学生と関わり学び合い、挑戦を重ねることができたと思います。環境問題への意識も非常に高く、個人的にSDGsへの関心も高まりました。

また、レンガ建築、街中に広がる運河や動植物たちの生み出す自然、自転車、運河で家族や友達と

ボートに乗ったり、カフェのテラス席でおしゃべりや食事を楽しむ人々の日常など、忘れられない光景がたくさんありますし、そうしたオランダ人の生活、心の豊かさに触れられて私も幸せな気持ちになりました。

留学にはさまざまな準備が必要なので大変と感じることもあると思います。ただ、それを乗り越えた先には、きっと自分の人生にとって宝物になる経験や出会いがたくさん待っています。大学生である貴重な今だからこそ、ぜひ一歩、踏み出してみてください。




学部1年次対象  
短期海外英語研修

語学力だけでなく、意識にも変化が！



▶留学先

 ニュージーランド  
オークランド大学

▶氏名・所属

麻植 みちるさん  
(人文学部 人文学科 2年)

私はニュージーランド・オークランド大学での英語研修に約4週間参加しました。

現地での生活は常に刺激に溢れていました。英語に接し続ける環境だったのはもちろん、整備されたオークランドの街並みと隣り合う剥き出しの自然に何度も息を呑んだことを覚えています。そして何より、ニュージーランドは極めて多様性に富んだ国でした。確かな自己を持って互いを受容・尊重し合う人々の姿勢に感銘を受け、私自身も無意識に影響されて自分のあり方をより深く考えるようになりました。

生の英語に触れてみたいという月並な動機で参加することを決めたこの研修でしたが、帰国後には語学的な面での成長に留まらない意識の変化が生まれました。今では、決断が求められる場面で「自

身の挑戦につながるもの」を選択している自分に気が付きます。

ニュージーランドでの日々は、今後の人生であと一歩踏み出す勇気が必要なとき、それを私に与えてくれる存在だと言えるでしょう。



本学の国際交流・留学に関する情報は、本学ウェブサイトをご覧ください。

トップページ→「国際交流・留学」

